

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所 [担当：山本・奈良井]

TEL：0853-22-6772

FAX：0853-24-3342

平成30年度 病害虫発生予察情報 技術資料第1号

平成30年4月4日

島根県病害虫防除所

イチゴにおけるハダニ類の発生状況について

平成30年3月29日の巡回調査では、イチゴに寄生するハダニ類が多くのは場で確認されています。現地では発生状況の把握に努めるとともに、薬剤散布など適切な防除対策をお願いします。

1. 現在の発生状況

- 1) 平成30年3月29日の巡回調査において、ハダニ類（主にナミハダニ）の発生は場率は80.0%（平年55.7%）、発生株率は65.0%（平年19.6%）、寄生小葉率は50.2%（平年14.5%）と平年と比較すると発生量が多い。
- 2) 1か月予報（3月29日広島地方気象台発表）によると、向こう1か月の気温は高く、ハダニ類の発生を抑制する要因とはならない。

2. 防除対策および防除上の注意事項

- 1) ハダニ類は葉裏に多く寄生しているため、薬剤散布を行う場合は、葉裏に薬液が付着するよう丁寧に散布する。また、繁茂している場合は薬剤が葉裏にかかりやすくなるため事前に葉かきを行う。
- 2) ハダニ類が寄生した株で葉かきを行ったときは葉を速やかに施設外に持ち出し、ハダニ類の分散を防止する。
- 3) 薬剤の選定や薬剤散布の際には、ミツバチに対しての影響を十分に考慮する。
- 4) 薬剤の使用に当たっては、農薬ラベルに記載の使用方法・注意事項を確認のうえ使用する。
- 5) 天敵製剤を使用しているほ場では、天敵に影響の少ない薬剤を選択する。
- 6) ハダニ類は薬剤感受性が低下しやすいので、薬剤の効果を確認し、複数回散布する場合は系統の異なる薬剤をローテーション散布する。薬剤については表1を参照。



左：ハダニ類による被害葉、右：ナミハダニ雌成虫

3. 薬剤防除（農薬登録内容は平成30年3月30日現在の情報に基づき作成しました。使用にあたっては必ず最新の「農薬登録情報」を確認してください。）

使用の際は同一系統（IRACコード）の薬剤の連用は避ける。

表1 イチゴのハダニ類に使用できる主な薬剤

系統 ※1 IRACコード	薬剤名	希釈倍率	使用時期	散布液量 (10a当り)	使用回数
気門封鎖※2	粘着くん液剤	100倍	収穫前日まで	150～300 $\frac{\text{L}}{\text{ha}}$	-
気門封鎖	サンクリスタ ル乳剤	300～600倍	収穫前日まで	150～500 $\frac{\text{L}}{\text{ha}}$	-
気門封鎖	フーモン	1000倍	収穫前日まで	150～500 $\frac{\text{L}}{\text{ha}}$	-
気門封鎖	サフオイル乳剤	300～500倍	収穫前日まで	100～500 $\frac{\text{L}}{\text{ha}}$	-
気門封鎖	還元澱粉糖化 物液剤※3	100倍	収穫前日まで	100～300 $\frac{\text{L}}{\text{ha}}$	-
3A	ロディー乳剤	1000～2000倍	収穫前日まで	100～300 $\frac{\text{L}}{\text{ha}}$	3回以内
6	アフーム乳剤	2000倍	収穫前日まで	100～300 $\frac{\text{L}}{\text{ha}}$	2回以内
6	コロマイト水 和剤	2000倍	収穫前日まで	100～300 $\frac{\text{L}}{\text{ha}}$	2回以内
10A	ニッソラン水 和剤	2000～3000倍	収穫前日まで	100～300 $\frac{\text{L}}{\text{ha}}$	2回以内
10B	バロックフロ アブル	2000倍	収穫前日まで	100～350 $\frac{\text{L}}{\text{ha}}$	1回
20B	カネマイトフ ロアブル	1000～1500倍	収穫前日まで	150～300 $\frac{\text{L}}{\text{ha}}$	1回
20D	マイトコーネ フロアブル	1000倍	収穫前日まで	100～300 $\frac{\text{L}}{\text{ha}}$	2回以内
21A	ピラニカEW	2000～3000倍	収穫前日まで	150～300 $\frac{\text{L}}{\text{ha}}$	2回以内
25A	スターマイト フロアブル	2000倍	収穫前日まで	100～300 $\frac{\text{L}}{\text{ha}}$	2回以内
25A	ダニサラバフ ロアブル	1000倍	収穫前日まで	100～350 $\frac{\text{L}}{\text{ha}}$	2回以内
25B, 21A	ダブルフェー スフロアブル	2000倍	収穫前日まで	100～300 $\frac{\text{L}}{\text{ha}}$	1回

※1 IRACコードとは殺虫剤を作用機構別に分類してつけられたもので、同じIRACコードの薬剤を連用すると殺虫剤抵抗性の発生リスクが高まるので、薬剤選択の際は注意する。

※2 気門封鎖剤は薬剤抵抗性の発生リスクが低く、使用回数に制限がないため連用できる。しかし、ハダニ類に直接十分量が付着しないと防除効果がないため、ハダニ類にかかるよう丁寧に散布する必要がある。

※3 薬剤名は一般名であり該当薬剤は複数あるため使用にあたっては登録内容をよく確認する。